

報道各位

2013年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2013年1月7日(月)午前10時30分 TOKYO FMホール～

株式会社エフエム東京は、2013年1月7日(月)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・富木田道臣が、以下の挨拶を述べました。



世界的なカオスの中で、2013年を迎えました。皆さんは一人一人どういう思いで新年を迎えられたでしょうか。

私は今の業績とは裏腹に、TOKYO FM のクリエイティブ・イノベーションに目立った進展があるようには思えず、強い危機感を感じています。業績面から見た当社グループの昨年は成果の上がった1年間であったと思います。特に上半期においては、連結・単体共に増収増益を果たすことができました。しかしながら、クリエイティブ・イノベーションにより何か新たなムーブメントを生み出せているでしょうか。

私は「理念の実践」を最も大切に思っています。「感動を提供し、共感を得る」という理念を実践し、限りなく多くの聴取者をわくわくさせ喜んで頂ける為にこの会社の存在意義があると考えております。人のために生きる人でなければ、放送局にいる必要はありません。世のため人の為に何が出来るかを常に自らに問いかけ、それぞれが自分のメディアをこうしたい、ああしたいというありたい姿を思い描き、主張し、自らそれを実現する人になってもらいたいのであります。

音声メディアの原点は聴取者に対する「優しさと思いやり」です。聴取者の心情を掬い取り、優しさと思いやりをもって接し続けて、初めて聴取者には心の扉を開いてもらうことができるのです。その上で、開いた心の扉の内側に何をどのように届けるか。聴取者の言葉をかりて言うなら「この番組を聴いていると面白く興味深い」「いろんな発見がある」「そうそう、そうなんだよ、よく言ってくれた」更には「このネタは使える。今日、彼に、彼女に教えてやろう」など聴取者心理を Action へいざなうクリエイティブされた一連の演出が重要であります。クリエイティブにかかわるグループ全社員がクリエイティブ・イノベーションを成し遂げるという価値と覚悟を共有し、議論を尽くしてやりぬいて欲しいのです。ターゲットを研究し尽くし、聴取者心理を読み取り、こだわった「Buzz」により、コミュニケーションの循環手法を生み出し、どういうムーブメントを起こすかを徹底的にイメージできるスキルが必要です。あらゆるものに興味を持ち、様々なものに触れ、大いに遊び、次々に BUZZ を操り出せるスキルを磨いて欲しいのであります。今年こそは、一人ひとりが聴取者をどうすれば行動にいざなえるのかという事にこだわり、真正面からクリエイティブ・イノベーションに取り組むこと、更には広告会社を始めスポンサーの皆様から喜んでもらえるよう、腹を割って議論し、メディア価値を再構築することにより、音声メディアの復権に繋げる大きな一歩を踏み出して欲しいのであります。

最後になりますが、この2013年は、当社グループを再構築する一年となります。その第一弾として1月1日付でFM サウンズとTOKYO FM 音楽出版が合併致しました。FM サウンズは今後クリエイティブ能力を更に強化し、映像制作も視野に入れ、チーム制を敷き、人材を補強しピカピカのクリエイティブ会社にしていきたいと考えています。これを始めとして、グループ全体の将来を見据えた再構築に次々取り組んで参ります。

グループの総合力を強化しながら、一方で次世代に向けた新たなステージを開拓していかなければなりません。言うまでもなくマルチメディア放送であります。将来に夢を持ち、新しいビジネスモデルを開発すべく、全社を挙げて取り組んで行きたいと思っております。グループ全社員がポジティブに連携して、大いに議論しながら、且つ遊び心を持ち、若い人材が夢を描いて様々なものにチャレンジしていける集団でありたいと思っております。

どうぞ今年も宜しくお願いします。